

# 改訂版『コミット英単語』の特徴と その活用法

池野 修

## 1. 『コミット英単語』の改訂

この度、『コミット英単語』を6年ぶりに改訂することとなりました。本書の「本当に必要な最小限の単語を、最大限に活用できるようにするための単語帳」という理念は維持しつつ、今回の改訂では、主に次のような変更を行っています。

- (1) 見出し語を900語から1,000語に100語増やしました。これは、ご採用校等からの要望があったこと、小・中学校の学習指導要領が改訂され、語彙数が増加したこととも関係しています。
- (2) 新課程の中学校教科書及び高等学校教科書に含まれる単語を調べ、掲載単語の見直しを行いました。
- (3) 初版の発行以降に実施された全商英検3級も参考にして、掲載単語の見直しを行いました。
- (4) 紙面にQRコードを掲載し、音声利用(発音、リスニング)の利便性を向上させています。

以下、改訂版『コミット英単語』の特徴について解説し、その活用法についていくつかの提案を行いたいと思います。(なお、以下は、『チャートネットワーク80号』(2016)に掲載した記事に加筆・修正を行ったものです。)

## 2. 「単語を知っている」とは

「英語学習で一番重要なものは何か?」と聞かれたら、多くの人は、自身の学習経験に基づき、「単語(学習)」と答えるのではないのでしょうか。経験だけでなく、多くの英語教育学の研究においても、英語リーディング能力、英語ライティング能力などを説明・予測する最大の要因は語彙(知識・能力)であることが実証的に示されています。(もちろん、文法や発音などの重要性を否定するものではありません。それらと組み合わせさせてこそ、単語の知識も意味があると言えるでしょう。)

「単語を知っている」とは、単にその意味を理解

していることに限定されるわけではありません。以下の例を見てみましょう。いずれも、語彙の知識の一部が欠如しているために起こっている問題です。

- (A) /á:pərə/, /póuəm/, /tánl/ と発音された単語が聞き取れない
- (B) image を「イメージ」と発音する
- (C) *Ijime* (bullying) is a serious problem today.
- (D) Now I am living in a one-room mansion.
- (E) The bag was heavy, so I put it.
- (F) (フォーマルなライティングで)I wanna be a superstar, I mean, someone who is...

(A)は、カタカナで表記すれば「アブラ」「ポォーム」「タノッ」のように聞こえるかもしれませんが、これらを *opera, poem, tunnel* と認識できない場合は、学習者の「頭の中の辞書(mental lexicon)」において、それらの単語の音声に関する知識が欠けていることを意味します。(B)についても、「イメージ」と発音する場合は、/imidʒ/ という正確な音韻情報が備わっていないことを示しています。(C)は綴りの問題(言うまでもありませんが、正確には *problem*)、(D)は *mansion*(大邸宅)という単語が意味していることの誤解(=正確な意味情報の欠如)、(E)は *put* という動詞には目的語の後に場所を示す表現(前置詞句や副詞句)が必要であることが理解できていないこと(=正確な統語知識の欠如)から起こる問題です。(F)は、フォーマルな書き物においてくだけた口語表現を使っている(=単語の使用域に関する知識の欠如)という問題です。これらのことから、「単語を知っている」とは、その単語の音韻(発音)情報、綴りの情報、意味情報、統語情報(形態論的情報も含む)、語用論的情報などが頭の中の辞書に登録されており、その知識をコミュニケーションの中で活用することができることを意味します。

このように、語彙の習得には様々な知識の習得が

必要とされ、あらためて言うまでもありませんが、非常に多くの時間と労力を要することになります。

では、語彙に関する知識はどのようにして学ぶのが効果的なのでしょう。私自身は、語彙は、それ自体を独立させて学ぶというよりも、意味のある文脈の中で、情報獲得・情報伝達の目的を持って、実際に英語を使いながら学ぶというアプローチを好む方ですが、このような方法だけでは不十分なことも確かでしょう。日本のような、目標言語(英語)との接触が多くない状況(要するに、膨大な量の英語を読んだり、聞いたりすることがない状況)では、単語に焦点化した教材を活用しながら学習することも、少なくとも補助的には必要となると考えられます。

### 3. 学習する単語を「限る」

「単語を学ぶ」のには大変な時間とエネルギーを必要とする作業であるため、生徒が持っている資源(時間、労力)を効率的に活用するためには、色々な意味で「限る」「限定する」ことが必要となります。たとえば、(i) 習得を目指す単語の数を絞り込む、(ii) 記憶する語義を限定する、(iii) 理解できればよい単語(受容語彙)と使えるようにする語彙(発信語彙)を区別して学ぶ、などはその例です。

『コメット英単語』が使用者として想定している学習者(以下、「コメット系高校生」と呼びます)は、大学進学を進路とせず、高等学校卒業後に社会に出て働くことを選択する高校生です。現在出版されている単語集のほとんどは、主に大学受験を想定したものであり、それらは高校卒業直後に就職を希望する生徒には必ずしも有用とは言えません。それは、受験用単語集は、コメット系高校生が必要としない英単語を数多く含み、しかもそれらを視覚受容語彙(読んで理解できる単語)として増やすことにプライオリティがあるからであり、逆にコメット系高校生が真に必要な単語の習得に十分なエネルギーを割けないからです。

単語学習を「限定する」手段として、『コメット英単語』はターゲットとする単語を1,000語に絞っています。その選定は次のような基準に基づいています。

- (1) 中学校検定教科書(全6社)の多くで用いられている単語 (cf. 中学校での必須語彙は、小学校で習った語に加えて1,600~1,800語)

- (2) 高等学校検定教科書『COMET English Communication I・II』における新出語の中で重要な語

- (3) 日常生活でよく用いる語

- (4) 想定している活用者(生徒)にとって重要な資格試験に頻繁に出てくる単語(全商英検3級の過去10年分及び3級語彙表のデータに基づいて選定。)

このように、学習者の「ニーズ(needs)」をよく考えて語彙の選定を行った結果、『コメット英単語』は、「大学進学を主な進路としない高校生」のための、基本的な単語、社会に出てから必要となる可能性の高い単語に焦点化した単語集となっています。

また、単語学習を「限定する」別の手段として、各単語につき、語義をなるべく1つに絞って提示しています。(ただし同時に、学習者が知っておくべき語義が複数あると確実に判断される場合は、それらをすべて提示しています。)このことに対しては、当然のことながら批判もあると思いますが、コメット系高校生にとって、学び(単語学習)をあきらめずに続けられるかどうかという観点を最優先したうえでの判断です。

### 4. 『コメット英単語』の特徴

学習のターゲットとする単語を1,000語に限定していることに加えて、『コメット英単語』には次のような特徴があります。

- (1) **見開き2ページ単位のレイアウト**—「見る、聞くなど(五感)」「時」「調理」などのテーマ毎に、原則10語の単語を見開き2ページに提示しており、使いやすいレイアウトとしています。
- (2) **原音に近いカタカナ発音表記**—各単語には発音記号表記に加えて原音に近いカタカナ表記を提示しています。カタカナ表記に対しては、カタカナでは表せない英語の音もある、生徒は単語を読むのではなくカタカナを読むことになるなどの批判がなされる場合もありますが、「コメット系高校生」には、最初は正確さの点で多少問題はあっても、とにかく声に出して読めるということがより重要であると判断したため、この表記を採用しています。ただし、カタカナ表記のみに頼るのではなく、後述のように、紙面にあるQRコードを活用して「聞こえるように」

発音する練習も行うように指導していただければと思います。

- (3) 「ビジュアル英単語」と「ビジュアルコミュニケーション」—イラストなどの視覚的情報を多く盛り込んでいます。特に、「ビジュアル英単語」というコーナーを10か所設けており、「家族 (grandfather, cousin, brother-in-law などが樹形図で示されている)」「街 (bus stop, crosswalk, traffic light)」などが視覚的に捉えやすいように工夫しています。また、「ビジュアルコミュニケーション」という単元も8場面用意し、「レストラン」「空港」「学校 (ALT とのコミュニケーション)」などの、生徒が(将来的に)出会う可能性の高い場面での易しい会話表現をマンガの形式で提示しています。
- (4) 「Job & Job 英語表現」—巻末に設けたコーナーにおいて、アルバイト先で、就職試験で、将来仕事についたときなどに役立つ英語表現を提示しています。たとえば、街で見かけるいろいろな掲示 (e.g. NO PARKING 駐車禁止, CASHLESS PAYMENTS AVAILABLE キャッシュレス決済が使えます), アルバイト先の飲食店で使える表現 (e.g. The rice is all-you-can-eat. ご飯は食べ放題です), 研修で来日する外国人労働者とのコミュニケーションで用いる表現などです。

## 5. 『コメント英単語』の活用方法

この単語帳は、先生方が生徒のニーズに合わせて、また指導しやすい形で活用していただければ幸いです。以下、活用法に関するいくつかの提案をしてみたいと思います。

単語の学習は、従来は、英単語→意味(日本語訳)という作業がメインであり、しばしば書く(書いて覚える)という形が基本形であったかもしれませんが、生徒の状況に合わせて次のような形を用いることを検討してみてもよいでしょう。

### A. 英単語→意味(日本語訳)の後に、意味(日本語訳)→英単語というステップを加える。

つまり、日本語で意味が言えることではなく、意図している意味が英語で言えることをゴールとします。『コメント英単語』ではターゲットを

1,000語に絞り込んでいるため、そのすべてを、読んだり聞いたりしてわかればよい「受容語彙」のレベルで止めるのではなく、話したり書いたりするときにも使える「発信語彙」にすることを目指したいところです。2ページ見開きのレイアウト(以下を参照)が、一番右側を「英語の文を言う」という形にしているのも、この考えを反映したものです。以下の図にあるように、英単語→意味の確認→その単語を含む使いそうな文→それを英語では...という思考の流れにあったページ構成としているので、有効活用してみてください。

.....→

英単語	意味	例文訳	英語例文
-----	----	-----	------

ゴール

“taste”という単語を例にとれば、taste → ~の味がする → あのレストランではすべてが[おいしい味がした→]おいしかったよ → Everything tasted delicious in that restaurant. となっています。

### B. できるだけ五感を総動員して単語を覚える。

記銘時(おぼえる時)に音声情報(発音)をチェックすることは追加の労力と時間がかかるため、綴りと意味を覚えるだけでよい、という割り切った考え方もあるかもしれません。しかしながら、真に役立つ語彙にするためには、『コメント英単語』が対象としている1,000語については、音声情報は不可欠です。ぜひQRコードを活用して、その単語の発音を聞き、自分でも発音しながら単語学習を行うことを生徒に強く奨励してください。

また、一般論ではありますが、五感の多くを総動員して記憶するようにすると効果的です。単語帳を見てチェックする(目)や綴りを書いて練習する(手)だけではなく、その単語の発音を聞いて確認する(耳)、その単語を発音してみる(口)といった方法を組み合わせるようにすると効果的です。記銘の手がかりが多ければ(たとえば、文字だけでなく音の情報も手がかりとして利用すれば)、記銘時の負担は少し大きくなるかもしれませんが、想起(思い出す)の段階では手がかりが増えることにもなり、単語の知識を活用しやすくなるからです。

**C. 生徒一人一人が『コメント英単語』を自分なりに「カスタマイズ」し、『My コメント英単語』にしてい**

たとえば、学習した日付をどこかに記入する、音読回数を「正」の字で記録するなどの形で「学習履歴」が視覚的にも残るように工夫すれば、努力の過程が目に見えるようになり、励みにもなります。また、気に入った表現をマーカーで塗る、その単語を聞いたこと／目にしたことがある場面などをメモするなどの形で、自分なりのオリジナル単語帳にする工夫を生徒に考えさせてみてください。（単語学習とは直接関係ありませんが、『コメント英単語』の表紙にお気に入りのステッカーを貼るなどの形からスタートしてもよいでしょう。）

**D. 個人での活用だけでなく、ペアでのチェックなども適宜取り入れる。**

たとえば、次のようなステップで進めます—(i) ペアになり、(ii) お互いの『コメント英単語』帳を交換し、(iii) 片方が対象ページの英単語／意味を読み上げる、(iv) もう片方が(閉本した状態で)それに対応する意味／英単語を言う、(v) パートナーが言えたらその単語にチェックマークを入れる、(vi) 制限時間内でいくつの単語を言うことができたかに挑戦する、(vii) 役割を交代して繰り返す。ペアによるチェック活動には、一斉の形態で進行しがちな授業に変化や動きを作ることができるというメリットもあります。（ただし、この活動を行う場合は、ターゲットとなる単語を生徒がきちんと発音できる状態にしておく必要があります。）

**E. 『コメント英単語』を使って英単語テストを行う場合、目的に合わせて様々な形式を使い分ける。**

英単語を示してその意味を書かせるという形だけではなく、次のような形式の英単語テストを実施することも考えてみてはいかがでしょうか。

(i) **単語の穴埋めによる文完成テスト**—たとえば、あるテーマの英単語 10 個を対象に、テスト用紙には、ターゲットとなる単語の部分を空欄にした例文 10 文(基本的に『コメント英単語』にある例文をそのまま用いる)を提示して、正解となる単語を入れることで文を完成させるものです。ターゲットとなる単語を下に選択肢として提示してもよいでしょう。

(ii) **英単語ディクテーション・テスト**—教師がターゲットとなる単語を発音し、生徒はそれを書き取る。聞いて理解できるような単語(=音声受容語彙)になっているかどうか、その最初のステップを評価する手段となるテストです。

(iii) **例文作成テスト**—レベルの高いテストになりますが、ターゲットとなる英単語のみを提示して、生徒がそれを含んだ例文を書く形のテストです。基本的に、『コメント英単語』の右ページの右端に提示されている英語例文を書くことを期待しています。

「評価」が「学習」の内容に影響を及ぼすというのは経験的にもよく知られていることであり、どのようなテストを行うか、その中身によって生徒が何を勉強するかも決まってくる部分があります。単語の意味しかテストしないのであれば、生徒は『コメント英単語』の左側ページしか学習しない可能性が高く、最終ゴールである「意味(日本語)を見て英単語を言う」「その単語を含んだ例文を英語で言う」を目指さないことになってしまいます。

**6. 終わりに**

『コメント英単語』は、大学進学を主たる進路とせず、高校卒業後に社会で働き始めることを選択する生徒のために、彼ら・彼女たちのニーズに合う単語帳が必要であるという認識から編集されたものです。少し前から、「ミニマリズム(極小主義)」という生活スタイル(=必要なものを極限までそぎ落として生活するスタイル)が話題になっていますが、その文脈で“Less is more”という表現にしばしば出くわすことがあります。これは、ドイツ出身の建築家のミース・ファン・デル・ローエが「より少ないこと、それはより豊かなこと」という意味で用いた表現とされています。『コメント英単語』を、この「より少なく、より豊かに」という考えを生かし、生徒にとって必要な最小限の英単語を、最大限に学び活用するための英語単語帳にしていれば幸いです。

(愛媛大学 教授)